

兵庫県ヤングケアラーの実態に係る福祉機関調査の中間報告について
(要保護児童対策地域協議会、民生委員・児童委員、こども食堂、地域包括支援センター・介護支援専門員等、障害者（児）相談支援事業所)

1 調査方法

(1) 要保護児童対策地域協議会

市町（神戸市除く）の児童福祉主管課（要保護児童対策地域協議会）へ調査票を配布して実施。

- 期 間：令和3年4月19日～5月7日
- 記入者：機関
- 回答数：184

(2) 民生委員・児童委員

市町民生・児童委員連合会（神戸市除く）に郵送で調査票を送付し、同連合会より民生委員・児童委員に調査票を配付し、調査を実施。

- 期 間：令和3年4月1日～7月31日時点
- 記入者：機関
- 回収状況：38

※※民生委員・児童委員の調査については、コロナ禍のため、調査期限を過ぎても調査票の返送あり。

(3) こども食堂

県下市町（神戸市除く）の子ども食堂主管課あて依頼し、市町が把握している子ども食堂あて、子ども食堂主管課から調査票を送付のうえ調査を実施。

- 期 間：令和3年4月1日～5月31日
- 記入者：こども食堂運営者
- 回答数：10

(4) 地域包括支援センター

市町の地域包括支援センター担当者を通じて、管内のセンターに調査票を配布して実施。

- 期 間：令和3年4月1日～6月30日
- 記入者：本人・機関
- 回答数：3

(5) 介護支援専門員等

兵庫県介護支援専門員協会各支部において、介護支援専門員が個別に利用者に依頼し承諾のあった方に調査票を配布して実施。

○期 間：令和3年4月1日～5月21日

○記 入 者：本人・機関

○回 答 数：4

(6) 障害者（児）相談支援事業所

市町を通じて市町の委託相談支援事業所に調査票を配布し、事業所で関わりのあるケアラーに依頼し調査を実施。

○回収状況：令和3年4月1日～5月14日

○記 入 者：本人

○回 答 数：15

2 ヤングケアラーの属性について

(1) 性別・年齢

ヤングケアラーの性別の構成割合については、「男性」38.6%、「女性」59.8%であった。また、ヤングケアラーの年齢は、「13歳」が18.5%で最も高く、次いで、「14歳」が14.2%、「12歳」が12.2%、「15歳」が9.8%の順であった。(平均：13.0歳)。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「男性」35.3%、「女性」64.7%であった。また、年齢については、「13歳」が19.6%で最も高く、次いで、「14歳」が15.8%、「12歳」が13.6%、「15歳」が10.3%の順であった。(平均：12.6歳)。
- 民生委員・児童委員、こども食堂、介護支援専門員、地域包括支援センター、障害者(児)相談支援事業所(以下「民生委員・児童委員等」という。)を通じた回答では、「男性」「女性」ともに47.1%であった。また、年齢については、「17歳」が17.1%で最も高く、次いで、「13歳」が15.7%、「14歳」が10.0%の順であった。(平均：14.3歳)

ヤングケアラーの年齢

	7歳以下	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	未回答	計
要保護児童対策地域協議会(N=184)	5	4	16	13	18	25	36	29	19	8	9	2	0	184
	2.7%	2.2%	8.7%	7.1%	9.8%	13.6%	19.6%	15.8%	10.3%	4.3%	4.9%	1.1%	0.0%	100.0%
民生委員・児童委員等(N=70)	2	0	0	1	2	6	11	7	6	4	12	4	15	70
	2.9%	0.0%	0.0%	1.4%	2.9%	8.6%	15.7%	10.0%	8.6%	5.7%	17.1%	5.7%	21.4%	100.0%
計	7	4	16	14	20	31	47	36	25	12	21	6	15	254
	2.8%	1.6%	6.3%	5.5%	7.9%	12.2%	18.5%	14.2%	9.8%	4.7%	8.3%	2.4%	5.9%	100.0%

(2) 就学の状況

ヤングケアラーの就学状況については、「小学生」27.6%、「中学生」45.7%、「高校生」22.4%であり、中学生が半数程度を占めている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「小学生」32.6%、「中学生」48.4%、「高校生」17.4%であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「小学生」14.3%、「中学生」38.6%、「高校生」35.7%であった。

就学の状況

	小学生	中学生	高校生	未回答	計
要保護児童対策地域協議会(N=184)	60	89	32	3	184
	32.6%	48.4%	17.4%	1.6%	100.0%
民生委員・児童委員等(N=70)	10	27	25	8	70
	14.3%	38.6%	35.7%	11.4%	100.0%
計	70	116	57	11	254
	27.6%	45.7%	22.4%	4.3%	100.0%

(3) ヤングケアラーの認識

ヤングケアラーが「ヤングケアラーである」との認識をもっている割合について、「いる」15.4%、「いない」41.3%であり、ヤングケアラーであると認識をもっていない割合は、4割を超えている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「いる」14.1%、「いない」34.2%、「未回答」51.6%であり、ヤングケアラーであると認識をもっている割合は少数にとどまっている。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「いる」18.6%、「いない」60.0%、「未回答」21.8%であった。

ヤングケアラーの認識

	いる	いない	未回答	計
要保護児童対策地域協議会(N=184)	26	63	95	184
	14.1%	34.2%	51.6%	100.0%
民生委員・児童委員等(N=70)	13	42	15	70
	18.6%	60.0%	21.4%	100.0%
計	39	105	110	254
	15.4%	41.3%	43.3%	100.0%

3 被介護者の属性について

(1) ヤングケアラーがケアをしている相手

ケアをしている相手については、「兄弟姉妹」が56.1%で最も多く、次いで、「母」が24.6%、「父」が6.2%の順であり、ケアの相手が兄弟姉妹とする回答が半数以上となっている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「兄弟姉妹」が63.5%で最も多く、次いで、「母」が24.5%、「父」が5.0%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「兄弟姉妹」が33.8%で最も多く、次いで、「母」が25.0%、「祖父母」が16.3%の順であった。

被介護者の状況

	要保護児童対策地域協議会(N=241)		民生委員・児童委員等(N=80)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
父	12	5.0%	8	10.0%	20	6.2%
母	59	24.5%	20	25.0%	79	24.6%
継父	2	0.8%	0	0.0%	2	0.6%
継母	1	0.4%	2	2.5%	3	0.9%
祖父母	6	2.5%	13	16.3%	19	5.9%
兄弟姉妹	153	63.5%	27	33.8%	180	56.1%
義兄弟姉妹	5	2.1%	0	0.0%	5	1.6%
従兄弟	1	0.4%	0	0.0%	1	0.3%
伯叔父母	0	0.0%	1	1.3%	1	0.3%
その他	2	0.8%	2	2.5%	4	1.2%
未回答	0	0.0%	7	8.8%	7	2.2%
計	241	100.0%	80	100.0%	321	100.0%

(2) ケアをする相手の年齢状況

ケアをしている相手の年齢については、「10歳未満」が43.6%で最も多く、次いで、「40代」が13.1%、「10代」が12.5%の順であった。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「10歳未満」が52.7%で最も多く、次いで、「40代」が12.9%、「30代」が11.2%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「10代」が21.3%で最も多く、次いで、「10代未満」が16.3%、「40代」が13.8%の順であった。

ケアをしている相手の年齢

	要保護児童対策地域協議会(N=241)		民生委員・児童委員等(N=80)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
10歳未満	127	52.7%	13	16.3%	140	43.6%
10歳代	23	9.5%	17	21.3%	40	12.5%
20歳代	8	3.3%	4	5.0%	12	3.7%
30歳代	27	11.2%	3	3.8%	30	9.3%
40歳代	31	12.9%	11	13.8%	42	13.1%
50歳代	5	2.1%	8	10.0%	13	4.0%
60歳代	2	0.8%	2	2.5%	4	1.2%
70歳代	5	2.1%	9	11.3%	14	4.4%
80歳以上	1	0.4%	4	5.0%	5	1.6%
未回答	12	5.0%	9	11.3%	21	6.5%
計	241	100%	80	100.0%	321	100.0%

(3) ケアをしている相手の状況

ケアをしている相手の状況については、「幼い」が 46.4%で最も多く、次いで、「精神障害」が 14.0%、「知的障害」が 8.7%の順であった。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「幼い」が 55.6%で最も多く、次いで、「精神障害」が 12.9%、「知的障害」が 6.6%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「幼い」が 18.8%で最も多く、次いで、「精神障害」が 17.5%、「知的障害」が 15.0%の順であった。

ケアをしている相手の状況(複数回答)

	要保護児童対策地域協議会(N=241)		民生委員・児童委員等(N=80)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
病気	12	5.0%	8	10.0%	20	6.2%
難病	1	0.4%	2	2.5%	3	0.9%
身体障害	10	4.1%	9	11.3%	19	5.9%
知的障害	16	6.6%	12	15.0%	28	8.7%
精神障害	31	12.9%	14	17.5%	45	14.0%
発達障害	10	4.1%	5	6.3%	15	4.7%
医療的ケアが必要な障害児	2	0.8%	1	1.3%	3	0.9%
高次脳機能障害	0	0.0%	3	3.8%	3	0.9%
依存症	7	2.9%	3	3.8%	10	3.1%
認知症	1	0.4%	3	3.8%	4	1.2%
心身機能の低下	10	4.1%	3	3.8%	13	4.0%
幼い	134	55.6%	15	18.8%	149	46.4%
その他	15	6.2%	4	5.0%	19	5.9%
計	249	※	82	※	331	※

※複数回答のため回答数が被介護者の数を上回っている。なお、割合は被介護者数を分母としている。

(4) ケアの内容

ヤングケアラーの行っているケアの内容については、「きょうだいのケア」が55.9%で最も多く、次いで、「家の中の家事（食事の用意、後片付け、選択、掃除など）」が47.6%、「感情面のケア（その人のそばにいる、元気づける、話しかけるなど）」が16.5%の順となっており、きょうだいの世話だけでなく、家事や、感情面のケアなど多様なケアを担っている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「きょうだいのケア」が60.3%で最も多く、次いで、「家の中の家事」が47.3%、「家庭管理（買い物など）」が13.0%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「家の中の家事」が48.6%で最も多く、次いで、「きょうだいのケア」が44.3%、「感情面のケア」が30.0%の順であった。

ケアの内容【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会(N=184)		民生委員・児童委員等(N=70)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
家の中の家事	87	47.3%	34	48.6%	121	47.6%
家庭管理	24	13.0%	15	21.4%	39	15.4%
金銭管理	5	2.7%	1	1.4%	6	2.4%
家計支援	5	2.7%	4	5.7%	9	3.5%
言語やコミュニケーションのサポート	2	1.1%	1	1.4%	3	1.2%
医療関連の手助け	0	0.0%	6	8.6%	6	2.4%
通院の介助	0	0.0%	6	8.6%	6	2.4%
入院や入所をしている家族に会いに行く	1	0.5%	3	4.3%	4	1.6%
医療的ケア	0	0.0%	2	2.9%	2	0.8%
身の周りのケア	22	12.0%	17	24.3%	39	15.4%
感情面のケア	21	11.4%	21	30.0%	42	16.5%
きょうだいのケア	111	60.3%	31	44.3%	142	55.9%
その他	5	2.7%	2	2.9%	7	2.8%
不明	0	0.0%	7	10.0%	7	2.8%
	283	※	150	※	433	※

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

(5) ケアの頻度

ケアの頻度については、「毎日」が48.0%で最も多く、次いで、「週4～6日」が7.9%、「週2～3日」が4.3%の順となっており、毎日ケアをしているヤングケアラーが半数近くとなっている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「毎日」が48.4%で最も多く、次いで、「週4～6日」が7.6%、「月に数日」が3.8%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「毎日」が47.1%で最も多く、次いで、「週2～3日」が11.4%、「週4～6日」が8.6%の順であった。

ケアの頻度

	毎日	週4～6日	週2～3日	週1日	月に数日	未回答	計
要保護児童対策地域協議会(N=184)	89	14	3	3	7	68	184
	48.4%	7.6%	1.6%	1.6%	3.8%	37.0%	100.0%
民生委員・児童委員等(N=70)	33	6	8	0	4	19	70
	47.1%	8.6%	11.4%	0.0%	5.7%	27.1%	100.0%
計	122	20	11	3	11	87	254
	48.0%	7.9%	4.3%	1.2%	4.3%	34.3%	100.0%

(6) 1日のケアの時間

ケアにかかる時間については、「1 時間以上 2 時間未満」が 17.7%で最も多く、次いで、「2 時間以上 4 時間未満」が 16.1%、「1 時間未満」が 7.5%の順であった。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「2 時間以上 4 時間未満」が 17.4%で最も多く、次いで、「1 時間以上 2 時間未満」が 15.8%、「4 時間以上 6 時間未満」が 4.3%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「1 時間以上 2 時間未満」が 22.9%で最も多く、次いで、「1 時間未満」が 17.1%、「2 時間以上 4 時間未満」が 12.9%の順であった。

1日のケアの時間

	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上 8時間未満	8時間以上	未回答	計
要保護児童対策地 域協議会 (N=184)	7	29	32	8	3	6	99	184
	3.8%	15.8%	17.4%	4.3%	1.6%	3.3%	53.8%	100.0%
民生委員・児童委員 等 (N=70)	12	16	9	3	4	2	24	70
	17.1%	22.9%	12.9%	4.3%	5.7%	2.9%	34.3%	100.0%
計	19	45	41	11	7	8	123	254
	7.5%	17.7%	16.1%	4.3%	2.8%	3.1%	48.4%	100.0%

(7) ケアの期間

ケアの期間については、「小学校 4～6 年生頃から」が 21.7%で最も多く、次いで、「小学校 1～3 年生頃から」が 16.5%、「中学生のとき」が 15.0%の順であった。このほか、「小学校入学前から」が 13.4%と、幼少のころからケアを担ってきたヤングケアラーもいる。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「小学校 4～6 年生頃から」が 22.6%で最も多く、次いで、「小学校 1～3 年生頃から」が 20.1%、「小学校入学前から」が 15.2%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「小学校 4～6 年生頃から」が 25.7%で最も多く、次いで、「中学生のとき」が 20.0%の順であった。

ケアの期間

	小学校 入学前から	小学校 1～3年生頃	小学校 4～6年生頃	中学生の とき	高校生に なってから	未回答	計
要保護児童対策地域協議 会 (N=184)	25	33	37	24	1	64	184
	15.2%	20.1%	22.6%	14.6%	0.6%	39.0%	100.0%
民生委員・児童委員等 (N=70)	9	9	18	14	3	17	70
	12.9%	12.9%	25.7%	20.0%	4.3%	24.3%	100.0%
計	34	42	55	38	4	81	254
	13.4%	16.5%	21.7%	15.0%	1.6%	31.9%	100.0%

(8) ケアの理由

ケアの理由については、「年下のきょうだいがいるため」が45.7%で最も多く、次いで、「ひとり親家庭であるため」が28.7%、「親の病気や障害、精神疾患、入院のため」が28.3%の順であった。このほか、「親が仕事で、忙しいため」が26.0%、「親が家事をしない状況のため」が22.4%と親の仕事などによって家事をせざるをえないヤングケアラーがいる。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「年下のきょうだいがいるため」が54.3%で最も多く、次いで、「ひとり親家庭であるため」が31.0%、「親の病気や障害、精神疾患、入院のため」が29.9%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「親が仕事で忙しいため」が25.7%で最も多く、次いで「親の病気や障害、精神疾患、入院のため」が24.3%、「ひとり親家庭であるため」、「年下のきょうだいがいるため」がともに22.9%であった。

ケアをしている理由【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会(N=184)		民生委員・児童委員等(N=70)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
親の病気や障害、精神疾患、入院のため	55	29.9%	17	24.3%	72	28.3%
ひとり親家庭であるため	57	31.0%	16	22.9%	73	28.7%
親が仕事で、忙しいため	48	26.1%	18	25.7%	66	26.0%
年下のきょうだいがいるため	100	54.3%	16	22.9%	116	45.7%
祖父母の病気や加齢、入院のため	5	2.7%	5	7.1%	10	3.9%
きょうだいに障害があるため	15	8.2%	13	18.6%	28	11.0%
親が家事をしない状況のため	45	24.5%	12	17.1%	57	22.4%
親にとって日本語が第一言語でないため	3	1.6%	0	0.0%	3	1.2%
福祉サービスを利用していないため	9	4.9%	2	2.9%	11	4.3%
他にケアをする人がいなかったため	25	13.6%	12	17.1%	37	14.6%
ケアをしたいとケアラー自身が思ったため	7	3.8%	10	14.3%	17	6.7%
その他	4	2.2%	7	10.0%	11	4.3%
未回答	5	2.7%	7	10.0%	12	4.7%
計	378	※	135	※	513	※

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

(9) ケアに協力してくれる人

ケアに協力してくれる人については、「誰もいない」、「母」が18.9%で最も多く、次いで、「父」が16.1%、「祖母」が14.2%の順であり、親族や福祉サービスの利用によってケアに協力してもらえるヤングケアラーもいる中で、「誰も協力してもらえない」との回答が約2割程度あった。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「誰もいない」が21.7%で最も多く、次いで、「母」が19.0%、「祖母」が13.6%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「父」が25.7%で最も多く、次いで、「母」が18.6%、「ヘルパーや福祉サービスの人」が17.1%の順であった。

ケアに協力してくれる人【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会(N=184)		民生委員・児童委員等(N=70)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
父	23	12.5%	18	25.7%	41	16.1%
母	35	19.0%	13	18.6%	48	18.9%
祖父	10	5.4%	8	11.4%	18	7.1%
祖母	25	13.6%	11	15.7%	36	14.2%
姉	15	8.2%	6	8.6%	21	8.3%
兄	16	8.7%	5	7.1%	21	8.3%
妹	18	9.8%	9	12.9%	27	10.6%
弟	18	9.8%	6	8.6%	24	9.4%
親戚	11	6.0%	6	8.6%	17	6.7%
近所の人	4	2.2%	4	5.7%	8	3.1%
知人	5	2.7%	2	2.9%	7	2.8%
ヘルパーや福祉サービスの人	18	9.8%	12	17.1%	30	11.8%
その他	6	3.3%	3	4.3%	9	3.5%
誰もいない	40	21.7%	8	11.4%	48	18.9%
未回答	29	15.8%	11	15.7%	40	15.7%
計	215 ※		91 ※		395 ※	

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

4 ケアの影響について

(1) 生活の影響について

生活の影響については、「学校を休みがちになっている」が 31.5%で最も多く、次いで、「ストレスを感じている」が 24.8%、「学校への遅刻が多い」が 15.0%、「自分の時間がとれない」12.2%、「友人と遊ぶことができない」10.2%の順となっており、学校生活への影響や体調面、自由な時間が取れないといった影響が出ているヤングケアラーもいる。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「学校を休みがちになっている」が 34.8%で最も多く、次いで、「ストレスを感じている」が 26.1%、「学校への遅刻が多い」が 17.9%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「学校を休みがちになっている」が 22.9%で最も多く、次いで、「ストレスを感じている」が 21.4%、「特に影響はない」が 18.6%の順であった。

生活への影響について【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会(N=184)		民生委員・児童委員等(N=70)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
学校を休みがちになっている	64	34.8%	16	22.9%	80	31.5%
学校への遅刻が多い	33	17.9%	5	7.1%	38	15.0%
部活ができない	7	3.8%	3	4.3%	10	3.9%
勉強の時間が十分に取れない	17	9.2%	7	10.0%	24	9.4%
授業に集中できない	12	6.5%	2	2.9%	14	5.5%
成績が落ちた	5	2.7%	2	2.9%	7	2.8%
友人と遊ぶことができない	14	7.6%	12	17.1%	26	10.2%
周囲の人と会話や話題が合わない	7	3.8%	2	2.9%	9	3.5%
ケアについて話せる人がいなくて、孤独を感じる	7	3.8%	5	7.1%	12	4.7%
ストレスを感じている	48	26.1%	15	21.4%	63	24.8%
睡眠不足	12	6.5%	2	2.9%	14	5.5%
しっかり食べていない	10	5.4%	6	8.6%	16	6.3%
体がだるい	4	2.2%	1	1.4%	5	2.0%
自分の時間が取れない	23	12.5%	8	11.4%	31	12.2%
進路についてしっかり考える余裕がない	5	2.7%	5	7.1%	10	3.9%
受験の準備ができていない	6	3.3%	1	1.4%	7	2.8%
アルバイトができない	2	1.1%	1	1.4%	3	1.2%
特に影響はない	11	6.0%	13	18.6%	24	9.4%
未回答	38	20.7%	15	21.4%	53	20.9%
	325 ※		121 ※		446 ※	

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

(2) ケアに関する悩みや不安、愚痴を話せる人

ケアに関する悩みや不安等を話せる人については、「担任の先生」が21.3%で最も多く、次いで、「いない」が17.7%、「母」が8.3%の順であった。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「担任の先生」が26.1%で最も多く、次いで、「いない」が19.6%、「友人」が6.5%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「母」が20.0%で最も多く、次いで、「いない」「祖母」がともに12.9%、「友人」が11.4%の順であった。

不安や愚痴を話せる人【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会(N=184)		民生委員・児童委員等(N=70)		計	
父	3	1.6%	5	7.1%	8	3.1%
母	7	3.8%	14	20.0%	21	8.3%
兄弟姉妹	8	4.3%	7	10.0%	15	5.9%
祖父	2	1.1%	6	8.6%	8	3.1%
祖母	5	2.7%	9	12.9%	14	5.5%
親戚	5	2.7%	1	1.4%	6	2.4%
友人	12	6.5%	8	11.4%	20	7.9%
担任の先生	48	26.1%	6	8.6%	54	21.3%
保健室の先生	5	2.7%	1	1.4%	6	2.4%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	6	3.3%	5	7.1%	11	4.3%
福祉サービスの人(介護職員、ヘルパーなど)	7	3.8%	4	5.7%	11	4.3%
医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
看護師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
近所の人	3	1.6%	0	0.0%	3	1.2%
アルバイト先の人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
SNS上で出会った人	2	1.1%	1	1.4%	3	1.2%
電話相談のスタッフ	2	1.1%	0	0.0%	2	0.8%
その他	18	9.8%	6	8.6%	24	9.4%
いない	36	19.6%	9	12.9%	45	17.7%
未回答	65	35.3%	17	24.3%	82	32.3%
	234 ※		99 ※		333 ※	

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

5 求める支援について

(1) ヤングケアラーに必要と思われる支援について

必要と考える支援については、「電話や訪問による相談体制の整備」が 32.7% で最も多く、次いで、「ヤングケアラーに役立つ情報の提供」が 20.1%、「社会的なヤングケアラー支援への理解」 18.9%の順であった。このほか、「経済的な支援」 17.7%、「気軽に急速や睡眠がとれる機会の確保」 16.1%となっている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「電話や訪問による相談体制の整備」が 40.2%で最も多く、次いで、「ヤングケアラーに役立つ役立つ情報の提供」が 23.9% の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「経済的支援」が 21.4%で最も多く、次いで、「社会的なヤングケアラー支援への理解」が 17.1% の順であった。

ヤングケアラーに必要と思われる支援【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会 (N=184)		民生委員・児童委員等(N=70)		計	
	数	割合	数	割合	数	割合
電話や訪問による相談体制の整備	74	40.2%	9	12.9%	83	32.7%
ヤングケアラーに役立つ情報の提供	44	23.9%	7	10.0%	51	20.1%
気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保	36	19.6%	5	7.1%	41	16.1%
気軽に情報交換できる環境の紹介・提供	26	14.1%	4	5.7%	30	11.8%
勤務しやすい柔軟な働き方	7	3.8%	3	4.3%	10	3.9%
就労及び再就職への支援	5	2.7%	6	8.6%	11	4.3%
24時間対応の在宅サービスの提供	29	15.8%	7	10.0%	36	14.2%
入居施設等の生活の場の整備・充実	12	6.5%	2	2.9%	14	5.5%
ケアをしている相手の生活を変えないサービス	13	7.1%	7	10.0%	20	7.9%
社会的なヤングケアラー支援への理解	36	19.6%	12	17.1%	48	18.9%
専門職や行政職員のヤングケアラー支援への理解	32	17.4%	8	11.4%	40	15.7%
経済的支援	30	16.3%	15	21.4%	45	17.7%
ヤングケアラーの健康管理への支援	16	8.7%	10	14.3%	26	10.2%
その他	12	6.5%	5	7.1%	17	6.7%
未回答	28	15.2%	17	24.3%	45	17.7%
計	400	※	117	※	517	※

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

7 行政、関係機関等への要望（主なもの）

要保護児童対策地域協議会

- ケアラー緊急時のショートステイの対応をスムーズにできる様をお願いしたい。
- このケースは母の外出の際子守として学校を休むという状況であるので、在籍がない子の一時保育や一時預かりが増えれば母も外出しやすいと思う。
- ケアラー側が安心できる、親への在宅支援の充実
- ヤングケアラーに対する包括的で、持続可能な支援システムの構築
- 生活保護世帯のため、担当 CW が父自身に使えるサービスを親身になって提案、また手続きの支援を一緒に行ってもらいたい。結果、ヤングケアラーの負担軽減にもつながると思われる
- ヤングケアラーについて、県と市での対応に温度差があり、支援や指導に差がある。
- 社会的にヤングケアラーについての認知が低いため、学校等関係機関の中でも対応や危機感に温度差がある。
- 支援に入る定義が曖昧なため、対応マニュアルを作成してほしい。
- 怪我や痣のように見える形では発見されにくいのが、ケースに対応する市・関係機関に対し、専門的な助言・指導を求めたい。
- 同じ境遇等のこどもの居場所づくり、心のケア等への継続的人的支援

民生委員・児童委員等

- 学童保育等で休日に利用できるようにしてほしい。平日の退所時間を延長してほしい。＜地域包括＞
- 多感な年頃なので、親切心が仇になる傾向も。学校では正直な気持ちを話せるようなので、学校との連携で情報を共有して欲しい。＜民生委員＞
- 本人の自覚がないまま頑張っていることが多い。学校の担任が子供の背景を見ていく必要がある。＜民生委員＞
- ネグレクト等で幼い頃から家事や兄弟の世話をしている、自分がヤングケアラーだという認識がない。ヤングケアラーだとわかって、どこに相談に行けば良いのか分からないので、ヤングケアラーの認知度を上げる活動をお願いします。＜子ども食堂＞
- 家事支援など子どもの負担が減るサービスの実施、ひとり親に対する経済的支援の充実＜子ども食堂＞
- 家族の一員としての役割や責任を感じながら成長できるいい機会としながら、本人のみの負担となり抱え込まずにすむ体制を検討していただきたいです。＜障害＞
- ケアラー本人がのびのびと自分らしく自己肯定感を育めるような社会とのつながりと機会が必要。家庭の状況を教育の現場でもしっかりと把握し、福祉や親任せではなく教育の中でもできることがもっとあると思う。＜障害＞
- 自分の家族はできるだけ自分達で介護したいと思っている。行政や機関に頼るとお金がいる。状況を伝えたり話を聞いてもらうだけで安心する＜介護支援専門員＞